



戦友録<sup>14</sup> 反交

沈黙の部分に耳を傾けて欲しい  
「国なんて滅びようが」と言いつつ  
なだいなださん

吉川 勇一

沈黙の部分に耳を傾けて欲しい

んの話は、寺山の歌とすぐ結び付く思いました。

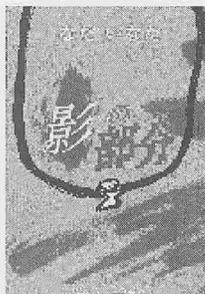
■ご承知のよう  
に、作家で精神科医だつ

ほうがいいけれど（『おっちょこちよ医』より）

語られていない部分、沈黙の部分に耳を傾けて欲しい（『信じること、疑うこと』より）

感謝をこめて なだいなだ

■このカードの最後にある「語られていない部分、沈黙の部分に耳を傾けて欲しい」という文を見て、私がすぐ思うのが、なださんの小説「影の部分」



（1985年、毎日新聞社）でした。なださんは自分のことを「おっちょこちよ」と語り、また多くの人は、なださんをユーモアの豊かな面白い方だと言います。しかし、私は、決してそれだけではないと思っています。ユーモアにあふれ、面白く受け取られるなださんの表現の後ろには、「語られていない部分、沈黙の部分」があるのだと思うのです。

■「影の部分」も、ベ平連の米反戦脱走兵援助活動について、表面的には軽く、ユーモラスな表現で書かれてあるように見えるのですが、しかし内容には、父娘の間の対立、学生運動の内ゲバに関係する娘など、60年代終わりから70年代にかけての家庭によくあった深刻な問題がたくさん含まれています。ぜひご一読ください。また、最近著では、『とりあえず今日を生き、明日もまた今日を生きよう』（青萌堂、2013年6月刊）があります。

（よしかわ・ゆういち／本会共同代表）

■6月9日、私の住む西東京市で反原発の10回目のデモに参加しました。いつも大きな幟を掲げている地元活動家Yさんは、今回も新しい大きな幟で、「マツチ擦るつかのま海に霧ふかし身捨つるほどの祖国はありや」と寺山修司の歌（空には本）などが大書されていました。デモから帰ってテレビをつけた途端に、なだいなださんの計報で驚きました。6月6日、ガンで逝去、83歳とのことでした。

■私たち、市民の意見30の会・東京の、鶴見俊輔さん、小田実さん、澤地久枝さんと一緒に緒だった講演会（2005年4月5日、東京）で、なださんは、「われわれが考えるのは、人間の問題なんです。国のあり方は、われわれの決めることなのです。私たちの仕事は、戦争のない未来の世界を、次の世代の人たちに譲り渡したいということなんです。国なんて滅びようが、なくならうが、問題じゃないんです」と話したのでした。（『市民の意見』90号に全文あり）。なださ

なだいなださんは、「われわれが考えるのは、人間の問題なんです。国のあり方は、われわれの決めることなのです。私たちの仕事は、戦争のない未来の世界を、次の世代の人たちに譲り渡したいということなんです。国なんて滅びようが、なくならうが、問題じゃないんです」と話したのでした。（『市民の意見』90号に全文あり）。なださ